

はじめまして グループ情報

心のかげはし

〈家庭文庫〉

家庭教育学級で学んだ機縁を生かしたいと生まれた「家庭文庫」。図書館のない町の子供たちに読む楽しさと喜びをとの願いから。ゼロからの出発。広報で呼びかけ寄附本830冊。町の協力で会場を確保し昭和54年開庫。

貸し出し、読み聞かせ、紙芝居、読書指導子供たちとの触れ合いを通して母親たちも勉強。研修会への参加、読書会、創作童話、紙芝居やスライド作り等。時間をやりくりしての共同作業。行事の計画、実行、地域との交流の中から、多くを学びました。

こうした地道な活動、努力が実り、行政を動かし、61年秋、町立図書館が出来ました。

この日を目指して夢中で過ごした年月、陰で支えて下さった多くの人々の心に応えて、25名の会員は又、明日へと夢を繋ぎます。

連絡先 田方郡伊豆長岡町長岡一二八七七一

電話 〇五五九四(8)〇六六四

代表者 川口節子



声の広報誌

〈サークル声〉

サークル声は、広報「かけがわ」をテープに録音し、目の不自由な方達に送っているグループです。

九人の会員で記事を割りふり、読み上げ、録音します。一時間にも及ぶ内容のテープとなります。それをダビングして、二十八人の個人、二組の団体へと送ります。

広報は月二回発行される為、そのつど集まるのがなかなか大変。とのお話でした。

テープを送るだけでなく、新年会、交流会運動会、イモ堀り等の年間行事を通して、目の不自由な方達との交流も深めています。

手作りのバックミュージックにのせて、「皆さん、こんにちは。サークル声です。お元気でお過ごしでしょうか。…」と始まる声の広報誌。皆さんさわやかな声の持ち主です。

連絡先 掛川市城北一丁目五一八

電話 〇五三七二(2)九九四四

代表者 井上てる子



収穫の喜びを体験させて

〈スイート・ポテト〉

二年前、中部農林事務所と保育園児いも掘りの話がまとまり、空き地を借りて開墾した畑に、専業農家の若妻さん達がさつまいもの苗を植えつけ、保育園児にいも掘りを実現させました。

このふれあいの中から「スイート・ポテト」の名が誕生しました。いも掘体験から今年度は、苗の植えつけまで行うことになり、子供達の期待や喜びは、昨年度より増しました。発足当初四人だったグループ員も今は六人になりました。花いっぱい運動に参画し、さつまいもの後、デイジーの苗を植えつけ、ピニールトンネルをかけて大事に育てています。春には、老人センターや公民館などでデイジーが咲き、地域の人々の心を和やかにしてくれることでしょう。

連絡先 静岡市下二二七

電話 〇五四二(94)九二三〇

代表者 榎本ひろ江



夫婦の会話

ある結婚式に出席した時のこと、半ば腰の曲がりかけたお年寄りが、「会話のある家庭を作って下さい」とスピーチされた。私は、これを聞いて少なからず驚かされてしまった。若い女性の祝辞ならびつたりだが、どう見ても明治生れの男性のスピーチには新しすぎるという感じがした。いや、さすが明治は新しいもの好き。誰も年をとれば、わずかの会話も貴重になるのか。と思いをめぐらした。たいていの家庭で、夫婦の会話は結婚したとたん激減してしまふようだ。疲れて帰る夫

は妻の話にもなっていない。話すことといえは子供の事ばかり……。そうこうしているうちに、「以心伝心」会話のないのが理想的という夫婦になつてくる。でも、もし問題があれば議論し尽くし、時にはちよつと楽しい洒落た会話などでてくる夫婦であつたらどんなに素敵だろうかと思う。もはや手遅れのわが家であるが、映画「黄昏」の老夫婦のいたわり合い、ユーモアあふれる会話がうらやましい私である。

静岡市 松本典代

今、小学校で

小一の長女の通う小学校では、男の子、女の子の区別なく、名前に「さん」を付けた呼び方をさせている。「りえ子さん」「かずはるさん」といった具合である。授業中も、休み時間も、帰宅後もこんな風呼び合っている。高学年では徹底しないようであるが、低学年の子達は、この呼び方をすんなりと受け入れている。

男の子の名前にも「さん」付けするのは、当初、親の方にとまどいがあったようであるが、慣れてみると不自然さはない。

男女、同じ呼び方をする、ほんの些細な事のようにみえても、男の子、女の子のこたわ

タイムタイム



りをなくす大きな一歩であると思う。

男の子も女の子も同じ体操服で勉強する小学生達は、前から見ても、男の子だか女の子だかわからない。男の子も三角巾をつけて、そうじをする。女の子でもサッカーをしたりすもうをとったりする。

この子達を見ていると、男女のこたわりは余りない。こうした環境で育った子供達が成人する頃、どのような女性達が社会で活躍するのであるか、楽しみである。

女の子達よ、たくましくあれ。

編集員 大山幸子

アイロンがけと娘

会社に出かける前、作業服とズボンにアイロンをかけるのが日課の私だが、冬休みの数日は、小六の娘がアイロンがけをしてくれた。

そんなある日の朝、彼女が「あれえっ」とすつとんきなような声を出したのである。私の方は、その日も日の周りのしわを気にしながら、チラホラ目だつ白髪の本をとげぬきで抜こうとしていた。鏡の中の手は思うように白髪を抜き取れないでいたが、私は、彼女の方をふり向いた。彼女が私のズボンを目の前に持ち上げて不思議そうに見ているのである。右足のズボンの折り目はピシッと前後についているのに、左足のズボンの折り目は左右にアイロンがけがしてあった。いつもは折り目がピシットついていたのに……小太りで下半身でぶの私でも、なんとかさまになつていたのに……。これは、これは……。午前九時の出勤というのにもう八時五十分。私のズボン姿に娘は、「あああつ」とまゆ毛を八の字にして

もどかしがる。彼女は、ズボンを片足ずつ、ていねいにアイロンで押さえたいらしい。私が、アイロンがけの細かいことまで教えなかったのが原因だったのだろうか。

さて、正月休みが終わり、私の初仕事の日朝、小六の娘はニコニコしながら私のズボンにアイロンがけをしてくれた。今度は、先日のような失敗はしなかった。「お母さん、格好いいよ。」と言って笑いながら私を送り出してくれた。

編集員 宮村清子



海外スポット

昭和61年度静岡県家庭婦人海外派遣団報告

自覚—努力—社会参加

アメリカ・カナダ班団長 杉山ひろ子
 全米婦人同盟サンフランシスコ支部長、グレコさんは、「婦人同盟は、二十年前に設立された。以来、私達は、女性自身の生き方を選択する権利と、平等の権利を守るために、女性にとって不利益なことは、政治的に、働きかけて排除していかねばならない。」と男女差別と戦ってきた。アメリカの男女同権は、私達女性を中心となつて、運動と努力の積み重ねの上に築き上げたものである。男性もメンバーに加わっている。」と、熱っぽく語ってくれました。



ホストファミリーとの交流会

また、ストックトン市では、お世話になったホストファミリーとの交流会の席上で、「婦人の就労と

家事分担について」それぞれが、「私には、四人の子供が居るが、二人の子供は、主夫業で、妻が勤めに出ており、夫が家事を担当している。◆私の家内は働いていないが、二人の娘は、働いている。◆私が勤めるようになったのは、子供が大きくなり、もう勤めに出ても安心だという時点からである。

◆家事の役割分担は、最初から、決まらずに、手伝っていただけではない。最初のうちは手伝っていただけ、夫のやり方が、私(妻)のやり方と違うので、気に入らなかつた。然し、就労婦人としての責任を果たすためには、どうしても、家事を共有しなければやっつけられないと、お互いが気付いたから、分担している、そこには努力の歴史がある。」と話してくれました。
 今や国連婦人の十年の成果の上に、国や県、市町村の婦人に対する施策が着々と動き始めてまいりました。
 このような時にあつて、海外での研修は今後の私たちの生き方や婦人活動のあり方を見定めるよい機会となりました。
 各方面の御配慮に深く感謝いたします。
 (静岡県地域婦人団体連絡会 常任理事)

研修を火種として

西ドイツ・スイス班団長 林のぶ
 研修の全日程は、穏やかで晴天に恵まれ、充実した日々でした。
 西ドイツ、レーゲンスブルグは塔付き石造りの今も中世を残す街並み。暮れ残る陽光がある間は、電燈を灯さない自然への敬畏。資源を大切にすることに徹する国民性。飽食の時代といわれる日本の暮らしと重ね合わせ身をひきしめました。



レーゲンスブルグの小学校で

スイスでは、備蓄した小麦で作った灰色のパン。「人は資源」の考え方の中で、人各々の特性を見きわめ、それぞれにふさわしい生き方をしているという国民性。日本人の平等観や価値観との相違を指摘される思いでした。

ホームステイを含む十四日間の研修は、ドイツ語とフランス語圈のため、ことばによる意志疎通は困難でした。もっぱら、身振り手振り、笑顔、そして真心でこの壁をのり越えました。ホームステイ先きでは、団員各々が様々な日本文化を伝える努力をしました。

聖堂内に響く、「ドームシユバツツェンの清らかな歌声。ふと見ると団員の一人が、そつとテープに録音しています。「日本に帰ったら、沢山の人々に聞かせたい。」この経験を一人占めにしたくない、という真摯な態度は、視察の先々で常に感じられたものでした。

またこの期間は、それぞれの所属する団体の活動内容を交換することによって団体の相互理解を深める場にもなりました。この中で互いが心をつなげたことは言うまでもありません。
 チームワークよく、しかも規律ある行動をとられた団員各位。
 この研修への御配慮をいただいた各方面の皆様方に深く感謝申し上げます。
 この研修を火種として、本県婦人の力強い歩が進められますことを期待します。
 (静岡県生活環境部婦人青少年課 参事)

こだま

ねっとわあく9号を
読んで



南伊豆町 長谷川伊都子(50代)

保母として在職していた頃、ねっとわあく創刊号を手にした折の新鮮な感動を、なつかしく思い起しました。婦人のための情報誌として着実に号を重ねていること、嬉しく思います。

共働き三十年を経て専業主婦となりましたが、新しい時代を考える手がかりとして、この冊子がより多くの主婦の目に、とどいて欲しいと願います。

静岡市 森川みさを(30代)

二年前から思いもよらぬ病気にかかり、再発をくり返す間に私の人生観は変わりました。母・妻であると同時に私という一回限りの人間個人の部分を大切にしようと思う様になりました。

そんな中で、友人から婦人のための活動が身近で活発に行なわれていることを知り、驚きながらも楽しく記事を読ませて頂きました。時々薬を飲む時に「一寸疲れたかな」と思うこともありますが、皆さんの生活を知ることによって又新しい気力もわいて来る様です。

島田市 小池幸子(40代)

「今、女性を変えるのは女性です。」という言葉に耳にします。

だが、まだ周りを見て左右されている自分を感じる事が、たびたびあります。自分の力で生きようと掛け声ばかりで終わることのないように、自分の価値基準を内面に持つよう努力したいと、「ねっとわあく」を読みながら、しみじみ考えさせられました。

御殿場市 古賀由美子(30代)

人生八十年時代。女性の社会参加も増え、ライフサイクルも多種多様の時代。確かなものを見つめ、情報を選択して、私なりに階段をワンステップずつ昇って、自己流の価値感でライフスタイルをつくりあげたいと思います。

菊川町 岩水素江(30代)

「新しい婦人とは」を大変興味深く読ませていただきました。私の小六の娘の時代には、世の中の仕組みも変わって女性が働き易くなっているでしょうが、厳しくもなっているでしょう。

娘にはその世の中を仕事と家庭を両立させ、自分の人生を積極的に生き抜いてほしいと願います。それには、現在の私の娘の育て方が大きく影響するのではないかと反省しました。

本

本の紹介

「いのち華やぐ」 瀬戸内寂聴著

嵯峨野の四季を追い、「老い」への指針を示す愛と生と死をめぐる好エッセイ。悲しくも美しいかけがえのない人間の命の尊さ、それは生命への讃歌。

講談社 一、〇〇〇円(K・M)

「専業主婦の消える日」 金森トシエ・北村節子共著

新しい時代の展開の中で、より望ましい家庭と社会を築いていく責任を、共にわかち、共に支える、対等なパートナーとしての男女への期待をこめている。

有斐閣 一、二〇〇円(K・T)

「転勤族の妻たち」 沖藤典子著

夫の転勤辞令は、同居する者に大きな波紋を投げかける。夫の企業の都合で動かされる妻の心情は複雑である。様々な立場の妻たちが転勤でかかえる問題を語っている。

創元社 一、二〇〇円(S・O)

「マッチャ・ウーマン」 美尾浩子訳

女性が今日のような社会的地位を築くまでには、非常に長い歴史と、多くの女性達の勇気と努力があった。そうした女性たちが命がけて立向かっていった記録である。

黎明書房 一、三〇〇円(M・O)

「ようこそアメリカへ」 ジャン・ウィルト

十年余りで二千人近い日本人をお世話下さった経験から、生活様式・表現方法の違いを超えて、真の理解・交流を深め合うために書かれた、日本人のための案内書。

サイマル出版会 一、五〇〇円(M・K)



